

製品名: ADNP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06641**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	124kDa

抗原情報

遺伝子名	ADNP
別名	ADNP; ADNP1; KIAA0784; Activity-dependent neuroprotector homeobox protein; Activity-dependent neuroprotective protein
遺伝子 ID	23394.0
SwissProt ID	Q9H2P0
免疫原	抗血清はヒト ADNP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160

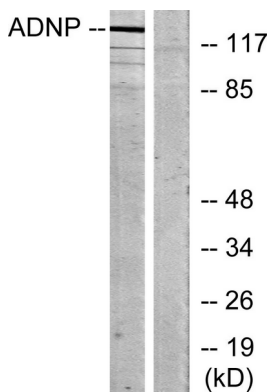
背景

血管作動性腸管ペプチドは神経保護因子であり、一部の腫瘍細胞の増殖を刺激し、他の腫瘍細胞に対しては阻害効果を示す。この遺

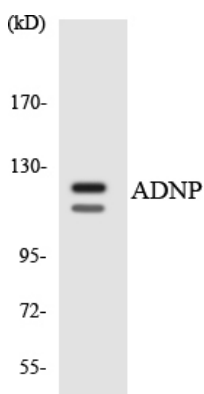
伝子は、血管作動性腸管ペプチドによって発現が上昇するタンパク質をコードしており、特定の腫瘍細胞に対する血管作動性腸管ペプチドの発現上昇に関与している可能性がある。コードされているタンパク質は1つのホメオボックスと9つのジンクフィンガードメインを含み、転写因子として機能することが示唆されている。この遺伝子は、正常な増殖組織においても発現が上昇する。さらに、コードされているタンパク質は、p53 活性の調節を介して特定の細胞種の生存率を向上させる可能性がある。同じタンパク質をコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能：潜在的転写因子。神経保護ペプチド VIP の関連効果の一部に関与し、正常な成長と癌の増殖に関与している可能性がある。、PTM：DNA 損傷時にリン酸化される（おそらく ATM または ATR による）。、類似性：ホメオボックス DNA 結合ドメインを 1 つ含む。、類似性：C2H2 型ジンクフィンガーを 9 つ含む。、組織特異性：広く発現している。心臓、骨格筋、腎臓、胎盤で強い発現が認められる。脳では、小脳と皮質領域でより強い発現が認められる。結腸では発現は認められない。結腸がん組織と乳がん組織で発現が著しく増加する。、

研究分野

画像データ



ADNP 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ADNP 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。

ADNP ポリクローナル抗体を使用した LOVO 細胞のウェスタン ブロット分析。

